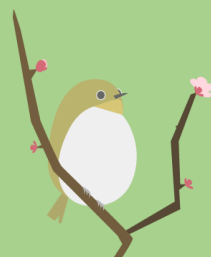




2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薮町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail [info@3c-mie.net](mailto:info@3c-mie.net) <https://3c-mie.net/>



3月は少し寒さも緩み、草木の芽吹きとともに人々の気持ちも踊る季節だと思えます。  
しかし一方で3月は、11年前の東北の大震災を思い起こし鎮魂する時期でもあります。

私たちの国は、災害大国であり、世界唯一の被爆国でもあります。  
だからこそ、現在、地球上で起こっている理不尽かつ残虐な戦争、中でも原子力発電所への爆撃には声を失います。

自然災害は、これまでの体験や識者の知見をもって備えることができますが、戦争狂人にはどう対処したらよいのでしょうか。  
最近、国内でも人を殺めた報道や子供の虐待報道が絶えないことも心が痛みます。

いつの時代も弱者が犠牲になる構図は悲しい現実です。  
世界が決めた持続可能な社会のための取り組み、目指すゴールまであとわずか8年です。  
愚かな人間によってこれまでの努力が無に帰してしまうのは、虚しい限りです…。



日本は、エネルギーや食料を海外に依存する割合が大きく有事の際は厳しいですが、技術力はピカ一です。  
その中で三重県は電子部品・デバイス・電子回路・化学工業・輸送機器といった各種製造業が盛んです。  
しかも県民一人当たりにおける生産年齢人口産出額は全国1位だそうです。



まさしく現場の製造、生産技術、品質保証、生産管理、設計という“ものづくりのプロ集団”がこうした現実を支えています。  
今回、この“ものづくり企業”の人材育成を支援する取り組みを、当社団会員の長谷川俊男様にご紹介いただきます。

## 三重ものづくり改善インストラクター養成塾について

三重県産業支援センターでは2015年から「三重ものづくり改善インストラクター養成塾」を開催しております。  
この紙面を使わせて頂き、この養成講座に皆様の受講参画をお願いするものです。

名称:「三重ものづくり改善インストラクター養成塾」事務局は三重県産業支援センター北勢支所 AMIC

主旨と目的;ものづくり企業では企業間競争に打ち勝つ強いものづくり現場への変身を目指し、企業体質のレベルアップの為に生産革新を行うことが望まれております。

この推進を担うのはスキルの高い人材による生産革新(ものづくりの生産現場の見える化とIoT対応、納期短縮や在庫圧縮、コスト管理と企業会計、更には品質管理向上等)の理論と手法のノウハウが必要となります。この理論と手法を身につけるため、東京大学 MMRC との連携のもと生産革新の講座に加え、実際のものづくり現場での実践実習を行います。

☆**受講者** ; ものづくり企業の改善改革推進リーダークラス 募集は10名前後

☆**受講料** ; 一人24万円(企業現役の方)、\*(支援機関や企業OBの方には特例あり)

☆**カリキュラム** ; 12日間の座学と実習講義に加え、最終日は生産革新事例報告会を実施

R4年度は計画ですが、R3年度のカリキュラム(裏面)を参照願います。

☆**講座の内容** ; 本養成講座では、ものづくりの重要性から紐解き、生産の流れやものづくり工程の流れを徹底調査し、無駄の発見と改革を行う為、「ものづくりの良い流れ」の理論と手法を身につけます。更に実際にものづくり現場を提供願います。

企業様へ出向き、講座で培った技量を実践して頂く「現場改善の実習」を行います。

☆**講師群** ; 東京大学 MMRC 受講者を中心に県内大手企業の経営層の経験者があたります。

☆**受講場所** ; 座学は四日市市内を予定、実習は委嘱可能な企業様へ出向きます

☆**これまでの生産革新実践企業(含む実習先)** ; 64社



MMRC;(Manufacturing Management Research Center)=ものづくり経営研究センター

R4年度も開催いたしますので、ご理解ご協力宜しくお願いします。

ご質問やご要望等あれば三重県産業支援センター北勢支所(AMIC)へお願いします



三重ものづくり改善インストラクター養成塾 校長 長谷川俊男

【 参 考 】 令和 3 年度三重ものづくり改善インストラクター養成塾カリキュラム内容

No.	区分	名 称	内 容
0		プレゼンテーションと序論	「デジタル化時代のものづくり」
1	概論	ものづくりの基礎概念	改善インストラクターとして、ものづくりの基本とそのプロセス全体を理解する。
2		競争力と企業パフォーマンス	企業競争の中での組織力や収益性に対する考え方をまとめ、企業のパフォーマンスの図り方も理解する。
6		フレキシビリティと DX 化の推進	企業運営や生産プロセスの中での柔軟な経営体制と運営について理解し、IT活用のシステムについても理解する。(DX 化の概要)
3	概論	製品開発プロセス	製品開発プロセスの中で、開発期間、開発の生産性と DR 等企業の総合商品力を理解する。
4		開発期間と製品開発の概論	開発部門での開発工程の管理と運営、新製品開発への取り組みとその開発力向上への情報提供を行う。
5		生産管理 (納期・工程・在庫管理)	納期管理は生産プロセスの中での生産工数や生産リードタイムであり、在庫となって現れることを理解し、IoT 活用と推進の基礎を理解する。 IoT の現状と技術動向とビジネスモデルを説明し、生産管理の IoT 利活用事例も紹介する。
10	手法	原価低減(VA/VE)と コストダウン)	図面や現物から、原価計算基準等を駆使して、VA・VE の手法で、部品の原価低減によるコスト改善を理解する。
11	手法	IEの基本(コストと生産性)	現場改善や現場のレイアウト改善などの基本である IE に関しての手法を理解する。又、作業改善への手法についても理解する。
12	手法 演習	標準作業と標準時間の設定と 合理化演習	ものづくり現場の基礎である標準作業と標準時間について、その測定と設定方法を理解する。又、トヨタ式標準時間の考え方も情報提供する。 ピンボードによる合理化推進の為の試行演習となる。
10	手法	5S 活動・ムダ取り・3定・生産 性向上	5S 活動の基本と3定(品、位、量)の推進紹介、ムダ取りの進め方、生産性向上の考え方を理解し、動作分析の手法を演習する。
8	手法	課題の見える化と対応策	改善・改革は課題発見から始まり、その改善手法や課題解決法を活用する事になる。又、課題の解決の思考はステップを取りながら進めることを理解する。
9	手法	ICT 利活用と企業経営の DX 化の基礎と IoT の事例説明	IoT の導入の為の技術と機器の説明と事例紹介を行い、クラウドによる企業内の DX 化推進への情報を提供することで、企業内の ICT 運営への全体像を理解する。
7	概論	設備管理	設備の投資効果や自動化への評価を理解し、機器安全管理を理解し、機器管理システムとして IoT 利活用への理解を深める。
13	概論	品質の管理と改善	ものづくり改善における品質管理の考え方、品質管理へのアプローチと品質管理のデータ化を理解する。
14	概論	QCD指導手順の総括	生産活動に踏み込んで実践指導する為、全体の流れをつかみQCDでの指導手順(バランス管理)を体得する。最近の企業内品質管理の課題を論議する。
15	概論	ものづくりの管理会計	企業の損益計算などの経営指標からものづくりにおける原価計算や製品製造損益などを理解する。
16	手法	現場改善の進め方(事例紹介) と「よい設計・良い流れ」講義	生産革新を推進した現場での改善へのステップ(兆候～改善)について紹介し、理解を深める。
17	手法	正味作業時間とVSM	生産革新は生産のロス削減と「良い流れ」化である事からその重要ポイントである作業時間分析とVSM作成を実践する。
18	実習	現場実習①(現場視察・トップ インタビュー・実習)	実習企業の現場で、実際のものづくり現場の様相と企業運営責任者からの企業方針を聞き取り、現場活動を開始する。
18	実習	現場実習②	実習企業の現場で、改善方針を検討し、具体的な活動を行う為の基礎データの収集から改善方策を見出す実習となる。
19	実習	チームディスカッション①	現場実習で発掘した事実とデータをベースに、具体的な改善策の立案と実現性をチームで協議し、取りまとめる。
18	実習	現場実習③	実習企業の現場で、改善方針を検討し、具体的な活動を行う為の基礎データの収集から改善方策を見出す実習となる。
19	実習	チームディスカッション②	現場実習で発掘した事実とデータをベースに、具体的な改善策の立案と実現性をチームで協議し、取りまとめる。
18	実習	現場実習④	実習企業の現場で、改善方針を検討し、具体的な活動を行う為の基礎データの収集から改善方策を見出す実習となる。
19	実習	チームディスカッション& 改善・改良策の施策検討	チームディスカッションから最終的な企業のレベルに合った施策提案を最終提案書にまとめる。
20	発表	改善案の提案	実習企業現場の改善提案を企業経営層に対して報告書(処方箋)を発表し、実現化を協議する。 実習企業現場の改善提案(処方箋発表内容)をチーム間で発表し、相互にディスカッションを行う。